

学校評価実践報告

(学校経営・運営ビジョンの重点目標に対する自己評価)

平成29年度「学校経営・運営ビジョン」に掲げた4つの重点目標に対して自己評価を行った。生徒、保護者、教職員からのアンケート調査を参考に行ったものである。その結果の概要は以下の通りである。なお、評価については、A、B、Cで表した。

A 十分に達成された B おおむね達成できた C 達成状況は不十分である

1 学力の向上を目指します

重 点 目 標	評 価
1 自主的な学習態度の育成に努めます。	B
2 基礎学力の定着と応用力の育成を図ります。	B
3 各種検定指導と高度な資格取得の推進に努めます。	B
4 学習指導方法や評価について研究し、授業の改善を図ります。	B

授業の様子は、概ね落ち着いており、教員の質問に積極的に応える姿も多く見られる。また、基礎学力の定着と応用力の育成を図るため、放課後の補充授業や長期休業中の課外などを実施している。全商主催の検定試験三種目以上1級合格者12名、日商簿記2級合格者5名(3年生5名)、ITパスポート合格者3名(3年生3名)、日商販売士2級合格者4名(2年生4名)、実務技能検定協会主催秘書検定2級4名(2年生4名)であった。昨年度より取り組みを強化したものの、成果としては昨年度と大きく変わらなかった。今後さらなる創意、工夫をしていく。

家庭学習においては、アンケート結果から学習時間が非常に少ない生徒が多いことから、学習習慣を身に付けさせるための具体的な取り組みや生徒の学習意欲が高まるような工夫を行う。

2 進路希望の実現を目指します

重 点 目 標	評 価
1 個に応じた進路ガイダンスの充実を図るとともにキャリア教育の推進に努めます。	A
2 進路情報の収集・整備に努め、進路相談の充実努めます。	B
3 職業人としてのビジネスマナーとコミュニケーション能力の育成に努めます。	A
4 進学・就職内定率100%を実現します。	A

学年と進路指導部とが連携し、段階的に生徒との個別面談を充実させるなど、きめ細かな進路指導を展開している。早い段階において生徒の進路希望を把握し、適性と

希望の両面から進路相談を行い、生徒の進路希望の実現を図ることができた。

本校のキャリア教育として、進路適性検査、進路講話、外部講師による講演会、進路相談等の取り組みを行っている。生徒の進路実現に向けた取り組みとして、授業やLHR、検定試験等を通して進路について考えさせ、進路指導部より将来の設計に役立つための様々な資料を生徒に提示した。

3 学校生活の充実を推進します

重 点 目 標	評 価
1 基本的な生活習慣の確立に努め、社会規範を身につけさせます。	A
2 専門機関の講師による講演会を開催し、心身ともに健全な生徒を育成します。	B
3 スクールカウンセラーと連携し、教育相談活動の充実を図ります。	A
4 朝の読書指導を推進します。	B

生徒の挨拶は大変よくできている。このことは、日頃の基本的な生活習慣における礼儀作法はもとより、進路の面接指導等あらゆる機会をとらえて、身につけなければならない職業人としてのマナーやコミュニケーション能力の育成に取り組んできている成果のあらわれであると考えている。

アンケートの結果、生命の大切さを認識し、社会規範を遵守している生徒が多いことから、さらに学んでいることをしっかり自分のものにし、自然とその立ち振る舞いにあらわれるようにする。

本校では、日程の中に朝の読書の時間を位置づけている。今後も図書館の利用を含めて読書の習慣が身につくように指導する。

4 特別活動の充実を目指します

重 点 目 標	評 価
1 部活動の加入を奨励し、活性化を図ります。	A
2 生徒の自主的な活動を促し、生徒会・各種委員会活動の活性化を図ります。	B
3 地域社会に貢献する人材育成を目指し、ボランティア活動等に積極的に参加させます。	A
4 就業体験活動等の学習を通じ、地域社会との連携を推進します。	A

部活動は、各大会において活躍しており、多くの部において地区大会を勝ち抜き、県大会出場を果たし、東北大会・全国大会へと出場している部もある。

部活動においてもコミュニケーション能力の育成や協調性等も学ばせる。

次年度は部活動活性化の取組により、加入率が向上した。

地域との連携においては販売実習にて出店し、今まで学んだ知識と技術を実践するとともに、地域の各種イベントを盛り上げてきている。また、28年度は公開文化祭を開催し、多数の入場者を迎えるなどの成果があった。

また吹奏楽部や郷土芸能保存会（じゃんがら念仏踊り）、フラダンス愛好会は、その特色や実績により地域からの依頼による諸行事に参加している。運動部や家庭クラブにおいても、地域のゴミ拾いを定期的に行うなど地域との連携に努めるとともに学習の成果発表の場として、また部活動の一環として地域社会との積極的なかかわりを持つことができた。

就業体験活動については、2年生全員3日間のインターンシップを体験させることにより、働くこと、生きることの尊さを実感させ、勤労観、職業観を醸成することができた。

学校からの情報発信の手段としてのホームページについては、さらなる創意工夫が必要と思われる。また、災害発生時などの情報伝達については、迅速な対応が求められており、次年度の課題である。